

表題：第8回瑞穂町の協働を考える会議 概要

- 1 日 時 平成25年12月18日（水曜日） 18時35分から20時35分
- 2 場 所 町民会館第1会議室
- 3 出席者 （構成員） ※敬称略
加戸佐織、香取幸子、川口尊、古宮郁夫、清水久央、中沢清、
野本多恵子
（事務局）
住民部長田辺健、地域課長大井克己、地域課地域係長友野裕之、
地域課地域係主任福島聡
- 4 欠席者 榎本和己、近藤隆幸、辻山幸宣（瑞穂町協働施策推進アドバイザー）
- 5 議 題
 - 1 座長の互選
 - 2 （仮称）瑞穂町協働宣言（案）について
 - 3 その他
- 6 配付資料
 - 1 次第（当日配付）
 - 2 第7回瑞穂町の協働を考える会議まとめ（事前配付）
 - 3 （仮称）瑞穂町協働宣言（案）
 - 4 宣言（案）に関する確認事項・検討事項
- 7 開会
大井地域課長

※ 座長であった飯田弘氏が平成25年11月22日付けで委員を辞任したため、加戸副座長が座長を代行

- 8 議題1 座長の互選
座長の互選は立候補者なし、加戸氏が古宮氏を推薦する。古宮氏承諾、一同了承。

※ここから古宮座長が議事を進行

座長から会議の進め方について確認

- ・ 早く行動に移した方が良いと思います。
- ・ 瑞穂町独自の宣言というのはあると思いますが、内容は他の自治体とさほど変わらないと思います。どう発信していくかがこれからの課題だと思います。
- ・ 宣言文ができた後にどれくらいの時間をかけて協働していくかということですが、すごく時間をかけていくのも大事ですが、ある程度早いタイミングで「宣言を出したらこれとこれをやります」というような具体的なものを今のうちからでも作っていかないと間延びしてしまうのではないかと思います。
- ・ すごくやる気のある方、役所の方でもすごく前向きにやる方たちが孤立という

か消耗していかないようなシステムをきちっと作っていかないと先行きは厳しいのではないのでしょうか。

- 高齢の方や障がいのある方と関わっていますが、その中でも早めに進めなければならぬものの中にゆっくり進めていくものもあって良いと思っています。宣言が出た後に自分の今までやってきたことが地域の中で役に立つような働きができれば良いように、宣言を出すだけではなく、出たことに対して連絡を取り合いながらきちっとそれが形になっていくようまちづくりに参加していければ良いと思います。
- 皆が自然に入ってこれるような、言葉掛けを入れてもらえればと思います。
- 協働の意識がどの程度役所の中に広がっているのでしょうか。住民だけではなく、役所の方が理解してくれないと宣言を出しても前に進まないと思います。
- 基本的には今までの継続で良いと思います。宣言文は立派なものができると思いますが、それを実践していく姿を描きながら作らないと宣言を出して終わってしまうと思います。
- 行政と住民がまちづくりをしていこうというところで、意識の部分で温度差が大きいのではないかと思います。
- 行政と住民と一緒にやっていくのであれば住民の代表である議員さんをどういう位置づけで関係付けていくかが気になります。
- どう運用していくか具体例も考えながら進めていくことも必要だと思います。
- 宣言文の主題や副題はあまりこだわって決めなくても、それに伴う動きのところをしっかりと固めれば良いと思います。
- 協働はあくまで手段であって、求めるものは「瑞穂町に住んでいて良かった」や他から「瑞穂町いいね」と言われるような住環境を作ることですね。
- この会議で費やした労力と成果が出たときには必ず外部から評価が来ると思います。やってきたことと評価のせめぎ合いのところ委員の置かれる立場で肉体的にも精神的にも出てくるのかと思います。
- いくらでも時間があるということではなく、期間の中で求めるところのものまでの結論を出していくという作業を淡々と進めていかなければならないと思います。
- 主題と副題が決まって、理念を検討していったらこの主題では良くなかったというように見直しができるぐらいの進め方をしていけば、まとまった提示ができるのではないかと思います。

事務局より

- 町職員の意識、認識が変わらないといけないということですね。
- 5月から約半年以上やってきた中で、職員を巻き込んだ会議をやっていません。会議が遅れていることは反省を怠りません。町が長期総合計画で協働と謳っておきながら言っている職員の認識が足りないということを実感しています。

- ・ 協働宣言に対する議決が果たして必要なのかという根本的な部分も議論をしています。形より実をとっていくためには、議決という形ではなく町長が告示する形とすることで皆さんのご意見を伺ったり、協働の会議で議論していきながら作り上げ、町長の責任の下に出すというスタンスの方が柔軟に物事が進むのではないかと思います。

9 資料の確認及び説明

友野係長から

- ・ 資料の確認
- ・ 会議の進め方について説明

10 議題2 (仮称) 瑞穂町協働宣言(案)について

【確認事項・検討事項】

- ・ 主題と副題は決めてしまって良いと思います。4つの副題はどれも良い文章ですが自分は一番上でも良いと思います。毎年動いていくと新しいものが出てきますから、主題と副題は決めておいて理念と方針もここである程度決めてしまわないといけないと思います。
- ・ 主題はこのままではポイントなどが感じられないことや、自治体名を変えるだけであとはどれも同じようになってしまうのではと思いました。
- ・ 協働という言葉は入れた方が良いと思います。瑞穂町の協働なので瑞穂町という言葉も入れた方が良いと思います。
- ・ 副題はいくつかありますが、全部まとめるのは無理だと思うので、ここで出した良いものを入れれば良いと思います。
- ・ 表現は、「しましよ」になってしまうのでしょうか。「しましよ」となっても「そうだな」と思う人もいれば「大きなお世話だ」と思う人もいるのではないのでしょうか。
- ・ 津島市は「します」という表現になっています。
- ・ 瑞穂町にずっと住んでいる人たちではない人も「自分の住んでいるところはこんなところなんだ」ということを改めて知ることだと思います。
- ・ 語尾については「します」でも良いと思います。
- ・ 副題は事務局が考えた案ですので、ほかに言葉があればそれでも構いません。事務局としてはひとつにまとめた方が良いのかと思います。
- ・ 「瑞穂町まちづくり協働宣言」というのも良いと思いました。
- ・ 意識的に「しましよ」でまとめたと思うのですが、なんとなく丁寧すぎると思いました。「しよ」でも良いと思います。
- ・ 主題も他に何か良いのがあればと思ったのと、副題には「未来」という言葉を入れても良いと思いました。今の人が未来を造るということもありますし、瑞穂町が未来を造るという意味で「未来」という言葉を入れても良いと思

ました。

- 理念もこれぐらいの長さがあっても良いというのであればこれでも良いでしょうし、もっと短いのが良いのであれば「先人が残してきた」以降の文章はポイントが高いと思いました。
- 細かいですが、「皆」を平仮名表記にした方が良いと思いました。「ましょう」というのは学校の先生が教室の皆さんに言っているような感じがするので、自分たちの意志をはっきりさせるために「します」という呼びかけの方が良いと思いました。
- 先程「未来」という言葉を入れた方が良いという意見がありましたが、言葉をプラスアルファで入れたりした方が良いと思います。
- 協働するために協働する訳ではなく、まちづくりのために協働するという目的意識をどう捕らえていくかになると思います。
- 主題はこれでもいいと思いますしあとは内容ですね。
- 副題を先に決めてしまった方が良いと思います。まだ言葉は入れられると思いますし。
- 4つの副題のうち一番上と一番下をつなげても良いと思います。「未来」という言葉もすごく良いですが、その言葉を入れると新たな言葉を作らなければならないと思います。
- 「未来」は長期総合計画の「みらいに・ずっと・ほこれるまち」にも入っていますね。協働宣言に入れても悪くはないと思いますが。
- 「みんなで楽しむ、未来への町づくり」というのも良いと思います。
- 響きとして五・七・五も良いと思います。まとめて長くするよりも端的に短くしても良いと思います。
- どれも未来に関する内容なので敢えて未来という言葉を入れなくても良いと思います。
- 時間的にも余裕がありそうなので、取り敢えずひとつ選んで内容がそぐわないようであれば変えても良いと思います。
- 理念の文章は読点が多いので読んでいて疲れるかなと思います。あと一行目の「手が届く自然や」の「や」は取ってしまった方が流れは良いのかなと思います。
- 文章の細かい点については役場の担当者に調整してもらえれば良いと思います。
- 2行目の「幹線道路をはじめ」の「をはじめ」を取り、読点で切ってもよいと思います。あとは「さまざま」を平仮名にするのか「皆」を平仮名にするのか「町づくり」の「町」を漢字にするのか、ある程度統一させた方が良いと思います。
- 「皆」は平仮名の方が良いと思います。
- 行政側で作っている計画などの文章との整合性もあると思いますが、私は協

働宣言の中で作っていった方が良いと思います。そうした方が協働宣言のカラーが出ると思います。

- ・ 長期総合計画では平仮名で「まちづくり」としてありますね。漢字にしてしまうとハード的な意味に捉えられてしまうのかもしれない。
- ・ 方針の標題で「人間関係の構築」というのは表現が少し難しいと思います。中学生で分かるようなレベルではないかと思います。
- ・ 「構築」というのは「つながり」という意味でもありますよね。
- ・ 「人と人とのつながり」という感じなのでしょうか。
- ・ 確かに「構築」だと表現が硬い感じがしますね。「人と人とのつながり」というのは良いと思います。
- ・ 「人をつなぐ」とシンプルでも良いと思いますね。次の項目の標題は「参加する、やってみよう」という感じでも良いと思います。そうすると3つめの標題と合ってくると思いますし、誰でも読んでみようかなと思うのではないのでしょうか。上からストーリーのような感じになると思います。
- ・ 事務局でもどんな方でも分かるような言葉があれば見つけてもらえればと思います。
- ・ 表現の砕け方のバランスもあると思います。
- ・ 今までの会議の中で出てこなかった言葉で、行政とNPO、町内会、コミュニティ団体の関わりに関することや、市民活動団体や事業者という言葉が抜けていたような気がします。また、ふれる、加わる、のぞむ、知る、関わるという言葉も出ていなかったなと思いました。細部をまとめる段階で検討していただければと思います。
- ・ 具体的な話になっていくと決して外せないことであると思います。関係団体のことについては仕組みづくりのときにご指摘していただければと思います。

【まとめ】

- ・ 主題と副題については、取り敢えず決めて進めることとしました。
- ・ 主題は「瑞穂町協働宣言」で進め、会議を重ねていくことで、「やっぱりこの主題ではつまらない」といったことが出てくればその時点で手直ししていくこととしました。
- ・ 4つの副題の候補については、多数決で2つに絞り込むこととし、結果「手をとって、みんなで楽しむ、まちづくり」と「住み続けたい町 みんなの手で」に決定しました。なお、2つの候補については一旦保留しておくこととしました。
- ・ 文字を漢字にするか平仮名にするかは保留としました。
- ・ 細かい表現については、事務局で整理することとしました。
- ・ 後で気づいたことなどあれば次回会議までに事務局に連絡することとしました。

議題 2 その他

事務局から

- ・ 次回会議の日程調整を提案しました。

今後の進め方等について

- ・ 会議では「こういうことをやったら良いのではないか」というような提案があれば途中でも入れて、それを事務局と調整して会議の中に反映していければと思います。
- ・ 協働宣言を出した後、協働で何かをやろうとしたときに補助金などは出るのでしょうか。少しでもお金が出れば人が来ると思いますし、自分たちが運営スタッフになってやっても良いと思います。
- ・ 2年間の任期の間にそういった行動をするためのプロジェクトのようなものを立ち上げることも予算が付けばできるのではないのでしょうか。そうすれば少しは動けると思います。
- ・ 町の予算のタイミングももちろんあるでしょうし額もありますが、より良い協働を考える会議としての活動の中であれこれ使えるものができれば良いですね。できるかどうかの部分でこの会議で議論することはできると思います。
- ・ 会館を借りる際に減免措置があったり、社会教育課で所管している協働の住民提案型事業でも負担の軽減があったりします。
- ・ 補助金を新しく作るには補助金等審査委員会という、その補助金が果たしてそういう団体などに支給することが妥当なのかどうか別途住民が参加する会議があるのですが、そこで諮問して答申を受けるという段取りを踏まなければなりません。議論が必要でしょうし、気づいたときから議論していくべきであると思います。
- ・ 自分の中で描いている線があると思いますので、それを自分で準備しておけば良いと思います。
- ・ 皆さんが思っていることが外に出るような会議の進め方をしたいと思います。
- ・ 今住民の皆さんの視点で協働について考えていますが、職員の方は進んでいないのが現状です。この会議では住民の視点から住民や議会に対してこういうことが必要なのではないかという提言をしていくのも良いと思います。ただ、それをやるタイミングを作らないとめちゃくちゃになると思います。
- ・ 事務局とうまく情報交換していければと思います。